

主 題：クリスチャン 9

聖書箇所：コリント人への手紙第一 1章9節

今、私たちが賛美したように（聖歌602）、罪が赦される、救いに与るということは本当に感謝なことです。前回、私たちは8節のみことばを学びました。「神の赦し」について、神は信じるすべての人の罪を完全に永遠に赦してくださいと。預言者イザヤが主からのメッセージをこのように語っています。イザヤ書43：25「わたし、このわたしは、わたし自身のためにあなたのそむきの罪をぬぐい去り、もうあなたの罪を思い出さない。」と。他にも同じようなみことばがあります。詩篇103：12「東が西から遠く離れているように、私たちのそむきの罪を私たちから遠く離される。」、ヘブル8：12「なぜなら、わたしは彼らの不義にあわれみをかけ、もはや、彼らの罪を思い出さないからである。」。感謝ですね。神はもうあなたの罪を思い出さないと言われました。つまり、神があなたの罪を赦されたときに、神はあなたの罪の記憶を神の前から消し去ってくださった、完全に消し去ってくださったと言うのです。そして、あなたが完全に赦された、救われたということはその後生まれてくる新しい生き方、つまり、神を愛する生活、そして、罪を憎む生活によって証明されるものです。神があなたを赦してくださったら必ずあなたの生き方は変わって来ます。そのことを私たちは繰り返し学んでいます。皆さんもご存じのように、救いは神からものです。実はそのことを今日も学んでいきます。

神は私たちが救ってくださった、神による完全な赦し、これは私たちが頂いたたくさんの恵み、祝福の中で、最も私たちに相応しくないものだと思います。恐らく、クリスチャンの皆さんひとり一人はこのようなことをいつもお考えになると思います。「なぜ、神は私を選んでくださったのか？なぜ、私のような者を救ってくださったのか？なぜ、私のような者にこんな恵みを与えてくださったのか？」と。繁華街に出て行くと多くの人々がいます。電車にも多くの人々が乗っています。でも、この隣の人ではなくて、あの人ではなくて、なぜ、私を神がこの救いへと導いてくださったのか？なぜ、私にこんなにすばらしい救いをくださったのか？…、信仰者である私たちは、そのことをいつも覚えながら生きることが必要です。

もし、私たちが今の質問を考えるなら、次のことを是非覚えてください。なぜ、神が私たちを選ばれたのか分からない、でも、神があなたを選んでくださった目的は分かっています。どんな目的で神があなたを選んでくださったのか？それはあなたを通して、この神のすばらしさが明らかにされるためです。私たちは自分のすばらしさを世に証するために生きているわけではありません。それはもうすでに過ぎ去ったのです。私たちはいろいろなくならないことを自慢して来ましたが、私たちが救われることによって自慢することはただ一つです。こんな私たちを罪から救い、生まれ変わらせてくださったこのすばらしい唯一真の神のことです。これが私たちの誇りです。そして、神によって救われたあなたはこのすばらしい神を世に証するために救われ生かされているのです。私たちはこうして救いに与って初めて気付いたと思いませんか？どんなに偉大な神が世におられるのか？私たちがこの聖書を通して、私たちが造り私たちを生かしてください、私たちを救ってくださった神がどんなにすばらしい方なのか少しづつ分かり始めて来ましたが、

私たちが分かっていたいかなかったのです。私たちが知らなかったのです。しかし、このような神がおられ、その神があなたや私をあわれんでくださり、救いへと招いてくださった。ですから、私たちは、私たちが知ったこの偉大な神を世に証して行くのです。恵みに満ちあふれた、どんな罪人でも救いを求めて来るなら、その罪を赦してくださるこの救いの神のすばらしさを世に証して行くのです。そして、私たちクリスチャンはその方にお会いする日を待ち望みながら今日を生きていくのです。信仰者の皆さん、あなたが神の前に立つ時、罪のさばきを恐れ震えながら立つことはないのです。あなたはその日を恐れながら待つことはないのです。私たちが私たちを愛してくださった主の前に立てるのです。なぜなら、主はすべての罪を完全に赦してくださった、記録から消し去ってくださったからです。主はあなたを迎えてくださると言います。赦されたということは感謝なことです。すばらしいことです。だから、赦された者として私たちは地上にあってこのすばらしい神を証して行こうとします。皆に伝えるのです。こんな偉大な神がいらっしゃる。あわれみに満ちあふれ、すべての人の罪を赦してくださるこのような偉大な神がおられることを世に証して行くのです。どのようにしてですか？もちろん、私たちのことばを通して、同時に、私たちが主に忠実に従って行くことによって、神があなたを用いてあなたを通してご自身のすばらしさを世に証して行ってくださるのです。

いずれにしろ、私たちは罪赦されてこの神のすばらしさを世に証する器として今生かされています。感謝なことです。この神に用いて頂けるなんて感謝なことです。この偉大な神のニュースを人々に伝えることが出来るという大変な務めを、いや祝福を、神は与えてくださったのです。

そして、今日私たちが見るのは9節のみことばであり、私たちクリスチャンに与えられた10番目の祝福です。

☆クリスチャンに与えられた祝福

10. 神との交わりに入れられた者 9節

1:9「神は真実であり、その方のお召しによって、あなたがたは神の御子、私たちの主イエス・キリストとの交わりに入れられました。」、これを原語から直訳すると、私訳ですがこうなります。「神は真実であり、そのお方によってあなたがたは神の御子、私たちの主イエス・キリストとの交わりに召された、招かれたのです。」と。パウロはここで私たちに与えられた祝福、それは「主イエス・キリストとの交わりに召された」と言います。主イエス・キリストとの交わりに入れられたということです。これが私たちクリスチャンに与えられたすばらしい祝福であると言うのです。この祝福についてみことばを見ていきましょう。初めに、主イエス・キリストとの交わりとはどのようなものかを見ます。二つ目に、私たちはどのようにしてその交わりに入れられたのかを見ます。最後に、そのすばらしい祝福が確実であるというその証拠を見ていきます。

1. 主イエス・キリストとの交わり

1) 「交わり」

このことばは「コイノニア」というギリシャ語です。いろいろな箇所に使われています。キャンベル・モルガンというイギリスの牧師は「この語の元になっているのは『コイノス』というギリシャ語であって、その最良の訳語は使徒の働き2章44節である。」と言っています。使徒2:44「信者となった者たちはみないっしょにいて、いっさいの物を共有にしていた。」。この「共有」ということば、これがこの「コイノニア」の元になっていることばで、そのことばが使われている箇所であると言います。また、使徒4:32にも「信じた者の群れは、心と意思を一つにして、だれひとりその持ち物を自分のものと言わず、すべてを共有にしていた。」とあり、ここにも「共有」と訳されていることばが出て来ます。ですから、この「コイノニア」「交わり」と言った時に、このような結論を引き出すことが出来ます。それは「交わり」とは「共有する」ということです。意味が分かるいろいろなことが見えて来ます。

(1) 兄弟姉妹との交わり

これも「コイノニア」と言います。クリスチャンの交わりです。でも、どちらかと言うと、私たちはクリスチャンが集まっているからコイノニアであろう、クリスチャンが集まっているから主にある交わりであると考えてしまうかもしれません。お茶を飲みながら楽しくワイワイ過ごすという交わりです。でも、先ほど見たように、この「交わり」には「共有する」という意味がある以上、ワイワイする以上の交わりというものを当然神は教えておられることに気がきます。共有するのです。

初代教会のクリスチャンたちはそうしていました。彼らは物質的なものも共有していました。必要がある人々の必要に応えようとしていました。でも、それは物質的なものに限定されたのではなくて、それ以外のことに関連しています。例えば、彼らは喜びを共有し合っていました。悲しみを、悩みを、苦しみを共有していました。コイノニアの意味が「共有」であるなら、神が望んでいる交わりというのはそういう意味をもったものであるはずですよ。

ローマ人への手紙12章10-18節には、人に対する正しい態度と、正しい行ないが列記されています。どんな態度をもって私たちは人々に接するののかということです。「:10 兄弟愛をもって心から互いに愛し合い、尊敬をもって互いに人を自分よりまさっていると思いなさい。:11 勤勉で怠らず、霊に燃え、主に仕えなさい。:12 望みを抱いて喜び、患難に耐え、絶えず祈りに励みなさい。:13 聖徒の入用に協力し、旅人をもてなしなさい。:14 あなたがたを迫害する者を祝福しなさい。祝福すべきであって、のろってはいけません。:15 喜ぶ者といっしょに喜び、泣く者といっしょに泣きなさい。:16 互いに一つ心になり、高ぶった思いを持たず、かえって身分の低い者に順応しなさい。自分こそ知者だなどと思っははいけません。:17 だれに対しても、悪に悪を報いることをせず、すべての人が良いと思うことを図りなさい。:18 あなたがたは、自分に関する限り、すべての人と平和を保ちなさい。」

◎人に対する正しい態度 : ローマ12:10, 14, 16

⇒互いに愛し合うこと: 私たちは自分よりも人の幸せを考えるのです。それが私たちに示された神の愛でした。神はまずあなたのことを考えてくださった。あなたの幸せのために神はご自分を犠牲にしてくださいました。その愛を私たちに示し私たちに与えてくださったのです。互いに愛し合うことです。世の中

の愛は「私はどうすればもっと喜びに満ちて幸せになれるのか？自分に何を与えてくれるのか？」と問います。主イエス・キリストが示してくださった神の愛は、人々の幸せのために自分が何を提供できるかを考えるのです。そのような態度を持って接しなさいと言います。

⇒**尊敬をもって人を自分よりもまさっていると思うこと**：クリスチャンが集まる時に私たちは自慢し合うのではありません。みんなに仕えていこうとします。人々に対して尊敬をもって、彼らが自分よりも勝っていると思って接しなさい、そのような心の態度を持ちなさいと言います。

⇒**すべての人に祝福を与えること**：心の中で彼らが祝されるように祈っていなさいと言います。

⇒**へりくだること**：

⇒**すべての人に善を行なうこと**

⇒**すべての人と平和を保つこと**

このような心の態度をもってクリスチャン同士が交わること、このような交わりです。クリスチャンが相手のことを考えて、その人を励ましていくように、その人の信仰の成長が叶うように助けていく、そのような心の態度が必要だと言います。

◎**人に対する正しい行ない**：ローマ12：13，15

⇒**人の必要に応える**：「旅人をもてなしなさい。」とあります。旅人が来たときに彼らの必要に応えるのです。

⇒**喜びや悲しみを共有すること**：物質的なことだけでなく、彼らの喜びや悲しみを共有することです。喜ぶ者といっしょに喜ぶのです。悲しむ者といっしょに悲しむのです。

もし、このような交わりが本当に実現したらどうでしょう？私たちはそのような交わり以外のものを求める必要はありません。なぜなら、このような交わりがあるなら、私たちはともに集まって心から神を誉め称えるからです。兄弟姉妹が喜びを共有し合い、悲しみを共有し合い、そして、祈り合っていくと…。それは神がいかにお喜びになることでしょうか。このような交わり、それが今私たちが見ているコイノニアということばが教えてくれることです。もし、このような交わりを持っていなければ、今からあなたがその交わりを持つことを始めてみてください。美味しいものを食べて楽しい時間を過ごしたとしても、このような交わりでなかったら虚しさが残ります。でも、本当に私たちが互いのことを思い合って、彼らの信仰の成長のために祈り合っていく、本当に辛いこともあるし悲しいこともあるし、いろんな悩みがあります。それらを共有し合っていっしょに祈り合っていく、いっしょに主を見上げていく、間違いなく、神はその交わりを持っている人たちに働いてくださいます。少なくとも、私たちは兄弟姉妹との交わりにおいて、神はどのような交わりを望んでおられるのか、そのことを見るのが出来ます。

(2) 主イエス・キリストとの交わり

パウロはここで特に主イエス・キリストとの交わりのことを言っているからです。もう一度思い出して頂きたいのは、「交わりをする」ということが「共有する」ということです。主イエス・キリストとの交わりに入れられた私たちは、主イエス・キリストがお持ちのものを共有させて頂いたということです。主イエスがお持ちのものを私たちは共有させて頂いたのです。それが「主イエス・キリストとの交わりに入れられた」ということです。どんなものを共有したのか、どういうものを私たちはこの主から頂いたのでしょうか？

・**愛を与えてくださる**：愛の神が愛を知らない私たちにその本当の愛を与えてくださったのです。ローマ5：5に「この希望は失望に終わることがありません。なぜなら、私たちに与えられた聖霊によって、神の愛が私たちの心に注がれているからです。」とあります。クリスチャンの心の中には、あなたの心の中には、この神の愛が注がれていると言います。ゆえに、私たちはこの神の愛をもって愛することが出来るようになったのです。生まれながらの私たちは愛が何であるのか分かっていませんでした。しかし、私たちはこの神を知った時に、この神があなたにご自身の愛を与えてくださった、愛を共有する者になったのです。

・**永遠のいのちを与えてくださる**：主がお持ちのいのちを私たちに与えてくださったのです。イエスは「わたしは彼らに永遠のいのちを与えます。彼らは決して滅びることがなく、また、だれもわたしの手から彼らを奪い去るようなことはありません。」(ヨハネ10：28)と言われました。つまり、イエスには永遠のいのちがあるということです。だから「与える」と言われたのです。永遠から永遠に存在している神がそのいのちを私たちに与えてくださったのです。私たちは永遠のいのちを共有する者になったのです。

・**必要を与えてくださる**：神は私たちにご自身の富を共有することを許してくださった。つまり、私たちの必要が与えられていくということです。ピリピ4：19には「また、私の神は、キリスト・イエスにあるご自身の栄光の富をもって、あなたがたの必要をすべて満たしてください。」とあります。つまり、あ

あなたがたの必要のすべてを満たすだけの富が神にあると言っているのです。だから、あなたのすべての必要を満たすことがお出来になるのです。私たちはその神の富を共有する者になった。だから、私たち信仰者はどんな時にでも、神は必ず私の必要を満たしてくださるという確信を持って生きているのです。また、生きていくのです。なぜなら、このような約束を頂いたからです。恐らく、ここにおられる皆さんの中には、物質的に言うならギリギリの生活をされている方もたくさんおられると思います。心の中で「主よ、どうぞ必要を満たしてください。」と言うのはいろんな必要が出て来るからです。でも、その時に、確かに神はその必要に応えてくださっていると、そのことを経験されている方も多くおられることと思います。みことばが言ったように、私たちは神の富を共有する者になったのです。心配しなくて良いのです。この方はあなたの必要をご存じであり、そして、あなたの必要を必要な時にちゃんと備えてくださるからです。この祝福はあなたのものです。あなたの必要はちゃんと与えられると言います。聖書は私たちに、信仰を持ったらあなたは大金持ちになりますという約束は与えていません。神の約束は「あなたの必要が与えられる」です。そして、そのことは私たちが日々の生活を通して学んでいることです。

・**慰めを与えてくださる**：慰めの神が私たちに慰めを与え続けてくださるのです。Ⅱコリント 1：4 「神は、どのような苦しみのおきにも、私たちに慰めてくださいます。こうして、私たちも、自分自身が神から受ける慰めによって、どのような苦しみの中にいる人をも慰めることができます。」。この神は慰めの神です。どんなときでも神はあなたに慰めをくださるのです。悲しい時でも辛いときでも、神はあなたのすべてのことを理解した上で、神ご自身の慰めを与えてくださる。感謝ことだと思いませんか？一生懸命神に説明しなくても神はちゃんと分かってくさって、あなたに慰めをくださるのです。ですから、あなたが本当に悲しみの中にいるとき、涙を流しているときに、主があなたの心を癒してくださるでしょう？心配しなくていいのだと、主があなたの心を慰めてくださる。神とともに生きるということは何とすばらしいことでしょうか？そう思いませんか、皆さん？その方がちゃんと私たちに必要な慰めを備えてくださるのです。

・**励ましを与えてくださる**：ローマ 15：5には「どうか、忍耐と励ましの神が、あなたがたを、キリスト・イエスにふさわしく、互いに同じ思いを持つようにしてくださいませよう。」とあります。いつも励ましを与えてくださると言います。ここで、ヒゼキヤ王の話をししましょう。歴代誌第二 32章に書かれています。ヒゼキヤ王はアッシリヤが責めて来た時に大変な恐れを抱きました。なぜなら、実は、彼は十年前にアッシリヤによって北王国イスラエルが滅ぼされたことを見たからです。そのことを知っていたこのヒゼキヤは、今度はアッシリヤがユダを攻めにかかるのを見ます。様々な町が滅んでしまいました。そして、敵はエルサレムへと来る訳です。非常な動揺を覚えたでしょう。どうすればこのアッシリヤの大群に勝利することが出来るかと。みことばが教えることは、18万以上の大群です。見たこともない大群です。その大群が自分たちの町を、自分たちの国を奪い取るためにやって来るのです。神はヒゼキヤに働きます。そして、ヒゼキヤ自身はこのようなメッセージを民に与えます。32：7、8「強くあれ。雄々しくあれ。アッシリヤの王に、彼とともにいるすべての大軍に、恐れをなしてはならない。おびえてはならない。彼とともにいる者よりも大いなる方が私たちとともにおられるからである。：8 彼とともにいる者は肉の腕であり、私たちとともにおられる方は、私たちの神、【主】、私たちに助け、私たちの戦いを戦ってくださる方である。」民はユダの王ヒゼキヤのことばによって奮い立った。」、すばらしいと思いませんか？大群を見た時にみんな恐れるのです。しかし、神を見た時に私たちは勇気をもらうのです。

そして、神はこの約束通り、翌日、アッシリヤ軍の18万5千人を殺します。そして、アッシリヤの王はニネベへと逃げていき、そして、そこで彼は彼の息子によって殺されるのです。人間の力がいかに弱いかです。信仰者の皆さん、もしかすると、あなたは今あなたが抱えている問題を自分の力で一生懸命解決しようとしているかもしれませんが、あなたが覚えなければいけないのは、しっかり神を見て神の前に喜ばれることを考えて選択することです。その時に神があなたを励ましてくださる。神があなたに力を与えてくださる。神は言われます。「強くあれ。雄々しくあれ。」、彼らを恐れてはならないと。どんな敵に直面していようと、主の教えるメッセージは同じです。「強くあれ。雄々しくあれ。彼らを恐れてはならない」。

そのようなメッセージをモーセはイスラエルの人々に、また、ヨシュアに対して与えています。申命記 31：6をご覧ください。「強くあれ。雄々しくあれ。彼らを恐れてはならない。おののいてはならない。あなたの神、【主】ご自身が、あなたとともに進まれるからだ。主はあなたを見放さず、あなたを見捨てない。」と。信仰者の皆さん、この約束は神があなたに与えてくださっているのです。信仰の歩みにおいて、私たちはこんな異教の国に住んでいます。クリスチャンとして主のみこころに従っていく時は確か

に恐れが生じます。偶像崇拜に対しても、いろんなその習慣に対しても、私たちはその中で「いや、私は主に従う」と言った時に恐れが生じます。でも、神が言われることは「恐れるな。強くありなさい。わたしがあなたとともにいるから。」です。あなたとともにいるのは全能の神です。こんな祝福に私たちは与っているのです。その方があなたを励まし続けてくださる。クリスチャンってすばらしいと思いませんか？このような祝福を私たちは頂いたので。

・喜びを与えてくださる：また、神の喜びを共有する者になりました。神がお持ちの喜びを頂いて私たちは生きることが出来るのです。ヨブ記8：21にこんなことばが記されています。「ついには、神は笑いをあなたの口に満たし、喜びの叫びをあなたのくちびるに満たす。」と。神が私たちの口に喜びを満たしてくださいと言います。だから、私たちは神の前に正しいことをやっいていこうとするのです。神が喜んでくれるなら私たちも喜ぶからです。イエスもこのように言っておられます。ヨハネ15：11「わたしがこれらのことをあなたがたに話したのは、わたしの喜びがあなたがたのうちにあり、あなたがたの喜びが満たされるためです。」と。主イエス・キリストの喜びが信仰者であるあなたの内にもうすでに与えられているのです。でも、与えられた喜びがあなたの内で満たされて溢れていくためには、あなたに責任があるのです。あなた自身が神に喜ばれることをしていなければいけないのです。喜びがないのは、主の前に間違ったことをしているからです。でも、主の前に正しいことを選択しそのように歩むなら、この喜びがあなたの心を満たし続けます。なぜなら、その喜びはクリスチャンであるあなたにもう与えられているからです。

・平安を与えてくださる：私たちは神がお持ちの「平安」というすばらしい宝を共有する者となりました。ダビデは詩篇29篇11節で「【主】は、ご自身の民に力をお与えになる。【主】は、平安をもって、ご自身の民を祝福される。」と、主ご自身が平安を与えてくださると言いました。そして、主イエス・キリストご自身も、ヨハネ14：27で「わたしは、あなたがたに平安を残します。わたしは、あなたがたにわたしの平安を与えます。わたしがあなたがたに与えるのは、世が与えるのとは違います。あなたがたは心を騒がしてはなりません。恐れてはなりません。」と言われました。このみことばも私たちに教えてくれます。もうあなたは神の平安を頂いたと。「では、なぜ私の心はいつも騒いでいるのでしょうか？なぜ、私の心に平安がないのでしょうか？」、それは見るところを見てないからです。そして、見るべきでないところを見ているからです。神を見なければいけないのです。私たちはどんな神が私の神なのか、どんな神が私に約束くださったのか、どんな神によって私が守られているのか、その方を知ることによって私たちは主ご自身がお持ちであったその平安を持って今日生きることが出来るのです。見るべきところをちゃんと見えていますか、皆さん？

主はヨハネ16：33で「わたしがこれらのことをあなたがたに話したのは、あなたがたがわたしにあって平安を持つためです。あなたがたは、世にあっては患難があります。しかし、勇敢でありなさい。わたしはすでに世に勝ったのです。」と言われました。また、同じヨハネ20：19、21、26にも「19 その日、すなわち週の初めの日の夕方のであった。弟子たちがいた所では、ユダヤ人を恐れて戸がしめてあったが、イエスが来られ、彼らの中に立って言われた。「平安があなたがたにあるように。」21 イエスはもう一度、彼らに言われた。「平安があなたがたにあるように。父がわたしを遣わしたように、わたしもあなたがたを遣わします。」26 八日後に、弟子たちはまた室内におり、トマスも彼らと一しょにいた。戸が閉じられていたが、イエスが来て、彼らの中に立って「平安があなたがたにあるように」と言われた。」。平安を持って今日生きることが出来ます。でも、そのためには私たちが主を見上げて、主の前を正しく歩み続けることです。

さて、主イエス・キリストとの交わり、主イエスがお持ちのこんなにすばらしい宝を私たちは共有する者になったのです。今見たのは一部です。しかし、言えることは、主イエスが歩まれたように、私たちは主イエスがお持ちであったその祝福を頂いてこの地上を生きていくことが出来るということです。主イエスがお持ちであったそのすばらしい宝を私たちが頂いて今日生きていくことが出来る、それが主イエス・キリストとの交わりに入れられた者たちに約束されている祝福なのです。これはあなたのことです。救いに与ったあなたにこの約束が与えられているのです。これがパウロが教えようとする「主イエス・キリストとの交わり」です。

2. 交わりへの主の招き

では、私たちはどのようにしてこの交わりにはいることができるのか？この交わりをもつことができるのでしょうか？Iコリント1：9を見ると「…その方のお召しによって、…交わりに入れられました。」とあります。つまり、あなたが一生懸命努力をしたからではなく、この方があなたをこの祝福の中に招いてくださったと言うのです。つまり、あなたがこの救いに与ったのは、すべて、神のみわざであるとパウロは教えるのです。なぜなら、私たち人間はみな生まれながらに霊的に死んでいるからです。つまり、神のことについても、神の救いについても、霊的なことについても、何一つとして理解できない者だと

ということです。だから、霊的に死んでいるのです。罪の赦しのことを聞いてもそれがすばらしいものに見えないのです。永遠のいのちが与えられると聞いても、それがすばらしいものに見えないのです。なぜなら、霊的に死んでいるから神のことが全く分からないのです。そのような霊的に死んでいる者が救われる可能性がありますか？ありません！霊的に死んでいるのですからどうすることも出来ないのです。だから、神が働いてあなたを救ってくれたのです。神があなたをこの救いへと招いてくださったのです。

ローマ8：30を見てください。「神はあらかじめ定めた人々をさらに召し、召した人々をさらに義と認め、義と認めた人々にはさらに栄光をお与えになりました。」。詳しいことは、ローマ書の学びのテープを聴いてみてください。今は簡単に、この30節が教えていることをもう一度思い出してみようと思います。

1) 召し : 有効召命

初めにパウロは、「神はあらかじめ定めた人々をさらに召し、」と言いました。神が召してくださったのです。この「召し」とは神学用語で「有効召命」と訳されることばです。つまり、「神が働いて神がその罪人を救いへと召して下さること」です。クリスチャンである者はみなこの「召し」を頂いたので。この神の有効召命によってあなたは救いへと招かれたのです。今話ししていることをパウロはⅡテモテ1：9でこのように説明しています。「神は私たちを救い、また、聖なる招きをもって召して下さりましたが、それは私たちの働きによるのではなく、ご自身の計画と恵みとによるのです。この恵みは、キリスト・イエスにおいて、私たちに永遠の昔に与えられたものであって、」、あなたが何かをしたから神が救いへと招いてくださったのではなくて、これはすべて100%神ご自身の計画であり、そして、神のみわざであると言っています。驚くべきことは、神がこのような計画をこの世界を造る前から計画しておられたことです。この世界を造る前、地球を造る前、人間が神によって創造されるその以前から、神はあなたを選んであなたに救いを与えようとしてくださっていたのです。神が召して下さらなければ、私たちはこの救いを求めて出て来ることはないのです。

思い出してください。主イエス・キリストが弟子たちにこんな質問をされました。「人々は人の子をだれだと言っていますか。」(マタイ16：13)と。弟子たちはいろいろな答えをしました。14節「バプテスマのヨハネだと言う人もあり、エリヤだと言う人もあります。またほかの人たちはエレミヤだとか、また預言者のひとりだとも言っています。」、彼らはまだ主イエスのことをよく知らなかったからです。そこでイエスは弟子たちに向かってこのように問われました。15節「あなたがたは、わたしをだれだと言いますか。」と。そのときにペテロが出て来てこう言います。16節「あなたは、生ける神の御子キリストです。」と。ペテロが言ったことは「イエス様、あなたは真の神であり約束の救世主です。」です。確かに、ペテロはここで真実を述べました。イエスがだれであるのかを正確に伝えました。

その後です。17節「するとイエスは、彼に答えて言われた。「バルヨナ・シモン。あなたは幸いです。このことをあなたに明らかに示したのは人間ではなく、天にいますわたしの父です。」と。神が働いてこの真理をペテロは知ったのです。人々がどんなに長くイエスとともに生活していたとしても、神が働いてその心を開かなければ、その真理を悟らせなければこの真理に到達することはないのです。だから、イエスは言われたです。「ペテロ、あなたの言っていることは正しい。でも、その真理を明らかにしたのは父なる神だ」と。

また、イエスはこんなことも言っておられます。ヨハネ6：44「わたしを遣わした父が引き寄せられないかぎり、だれもわたしのところに来ることはできません。わたしは終わりの日にその人をよみがえらせます。」、ヨハネ15：16「あなたがたがわたしを選んだのではありません。わたしがあなたがたを選び、あなたがたを任命したのです。それは、あなたがたが行って実を結び、そのあなたがたの実が残るためであり、また、あなたがたがわたしの名によって父に求めるものは何でも、父があなたがたにお与えになるためです。」、みことばが教えることは、あなたが神を選んだのではない、神があなたを選んでくださったゆえにあなたはこの救いに与ったということです。主ご自身があなたの内に働かれたから、あなたはこの救いへと導かれていったのです。それがみことばが私たちに教えてくれることです。ですから、この「有効召命」というのは、選ばれた人々が神に対して正しく応答できるように働くものです。

2) 義 : 義と認めた人々

ローマ8：30には続けて「召した人々をさらに義と認め、」、神がそのように認めてくださることばです。これは法廷におけることばです。裁判官が被告に対して「あなたは無罪である」とそのように宣言することばです。主イエス・キリストを信じたあなたに対して神は、「あなたは聖い」と宣言して下さるのです。そして、あなたの罪を赦し、神と交わることを許可してくださったのです。

ですから、神の救いというのは、神があなたを救いへと招いて下さり、そして、神があなた自身を「この人は聖い」と宣言して下さることばです。義人とは、神の判断によって義と宣告された者であり、

不義な者とは、神が有罪と宣告した者です。

3) 栄光 : 栄光をお与えになった人々

そして、もう一つ、「栄光をお与えになった」ことです。「義と認められた人々にはさらに栄光をお与えになりました。」とあります。これは「栄光のからだを頂き、そして、栄光の主とともに永遠を生きる」ということです。皆さん、主イエス・キリストにお会いしたとき、あなたは罪の衣を脱ぎ捨てて、栄光のからだを主から頂きます。そして、この栄光の主とともに永遠を過ごすのです。それは明らかに将来のこと、未来のことです。なぜなら、今私たちはまだ栄光のからだを頂いていないからです。でも、みことばを見た時に教えられるのは、「栄光をお与えになりました」と過去のこととして書かれていることです。不定過去という時制をパウロはここで使うのです。これから先に起こることを、なぜ、この時制で書いたのでしょうか？それはそれが確実に将来に起こることがはっきりしているからです。このことが確実に起こるから、パウロは敢えてそれを未来形で書かずに、あたかも起こった出来事のように記しているのです。それは確実に起こることだから。ですから、神はあなたを世界を造る前から選んでくださり、あなたを救いへと招いてくださり、あなたを「聖い」と宣言してくださり、そして、あなたに栄光を約束して下さったのです。ピリピ人への手紙3：21に「キリストは、万物をご自身に従わせることのできる御力によって、私たちの卑しいからだを、ご自身の栄光のからだと同じ姿に変えてくださるのです。」とある通りです。聖霊は、あなたの性質が主のご性質に似たものとなるようにと働いておられます。

だから、救いというのは神のみわざだと言うのです。神があなたを選んで救いへと招いて下さったのです。ある人たちはこのことを聞くと、いつもある疑問を言います。「人が救われないのは神が召されなかったからだ。そうでしょうか？救われたのは神が召して下さったからだ。では、召されないでさばかれた人をなぜ神は良しとされるのか、なぜ、彼らをさばくのか？なぜ、そのような人を永遠の地獄に送るのか？神が選ばなかったから、彼らは永遠のさばきに至り、永遠の地獄に至るのではないか？」と。要するに、責任を神のところに持っていこうとするのです。

問題はどこにあるのでしょうか？ここにそのような人がいないことを信じますが、ある人が永遠の滅びに至った時に、自分が永遠の滅びに至ったその責任を神のせいにするには出来ないのです。なぜなら、神は救いのメッセージをあなたに聞くチャンスは何度も何度も与えて下さったからです。何度もその機会を頂いていながらあなた自身がそれを拒んだのです。そのメッセージを拒み続けて来たのです。そして、その結果、自分が永遠の地獄に至った時に、その責任を神に転嫁することは出来ないのです。たとえそのようにしたくても、その責任は自分自身にあるのです。自分がその救いを受け入れようとしなかったからです。だから、罪人がその地獄に行く責任を神に押し付けることは出来ないのです。それは間違った選択をしたゆえに、自らの上に与えられた当然の結果なのです。

今日のテキストに戻ってください。今日、私たちが見て来たのは、神のすばらしい祝福を共有する者に生まれ変わった、こんな祝福を頂いたということです。しかも、このキリストとの交わりに入れられたのも、あなたが何かをしたのではなくて、神ご自身があなたを召して下さったからです。今、そのことを見て来ました。信仰者の皆さん、そのことを考えるだけで私たちは大きな責任を負っていると思いませんか？私たちがこうして救われて、こうして今日生かされているのは、最初に話したように、この神のすばらしさを人々の前で明らかにするためです。私たちの神はこんなにあわれみ深い方であり、こんな祝福を信じる者に与えてくださるということを世に明らかにしていくのです。

だから、私たちはどのように生きるかが大切なのです。私たちがキリストの喜びを持って生きているなら、間違いなく、周りの人々はその喜びがどこから来たのかと、そのような関心を持ちます。そして、それをくださった神に目を向けるのです。私たちがどんな時にも平安を持っているなら、その平安を与えてくださった神に目がいくのです。どんな時にも主に期待して主を信じて歩んでいるなら、その確信がどこから来たのか、神の方に人々の目がいくのです。こうして神はあなたを使ってご自身のすばらしさを世に証して行こうとするのです。大変な責任を私たちは負っているのです。

「主との交わり」、これこそが最も大切なものです。Iヨハネ1：3に「私たちの見たこと、聞いたことを、あなたがたにも伝えるのは、あなたがたも私たちと交わりを持つようになるためです。私たちの交わりとは、御父および御子イエス・キリストとの交わりです。」と書かれています。

3. 祝福の保証

この神の祝福が確かである証拠が書かれています。9節は「神は真実であり、」と始まっていますが、原文では「真実、神は」と並びます。最初に「真実」という形容詞が出て来るのです。なぜ、パウロはこのような書き方したのでしょうか？「真実」を強調したのです。パウロが強調したことは「神とは真実なるお方、つまり、約束されたことを必ず守られるお方である。」です。ですから、「この祝福があな

たに与えられた」と神が言われることは神の保証済みなのです。この約束は確実にあなたのものだと言わうのです。真実な神だから、あなたに与えると約束されたこの祝福をあなたは失うことは絶対にないのです。この方が言われたことは必ずそうなるのです。それが神なのです。モーセはこのように言っています。申命記7：9「あなたは知っているのだ。あなたの神、【主】だけが神であり、誠実な神である。主を愛し、主の命令を守る者には恵みの契約を千代までも守られるが、」と。この「誠実」とは「信頼に値する、信頼できる」ということです。ですから、モーセも知っていたのです。「私たちの神は信頼に値する方、この方を信じていけばいいのだ。この方に信頼を置いていいのだ、この方は神だから。」と。パウロもこのように言っています。Ⅰテモテ4：9「このことばは、真実であり、そのまま受け入れるに値することばです。」、Ⅱテモテ2：13「私たちは真実でなくても、彼は常に真実である。彼にはご自身を否むことができないからである。」と。神は嘘をつけないのです。神のおっしゃることは常に真実なのです。これが私たちの神なのです。

私たちは何週間もかけて神が与えてくださった祝福を見て来ました。信仰者の皆さん、このように言えませんか？「クリスチャンというのは最も幸せな者だ」と。どうですか？信仰者の皆さん、あなたはどのように言っていますか？「神さま、私はこの世で一番幸せな者です。なぜなら、神さま、あなたを信じることをあなたは良しとしてくださいましたからです。罪の赦しを与えてくださった。こんな祝福を私にくださった。全能なる神が私の内におられ、私といつもともにいてくださり、私を天国に導いてくださる。この地上にいても私を見捨てることなく見放すことなく、いつも側にいてくださる。神さま、私は本当に幸せな者です。」と。皆さんにお伺いしたいのは、あなたは心からそのように言っておられますか？ということですよ。

なぜなら、今私たちが見て来たのは、私たちがどんなに努力をしても得ることのできない祝福を、神は一方的に私たちに与えてくださったということですよ。私たち信仰者は、クリスチャンはこんなにも祝われているのです。そのことを感謝していますか？だから、私たちが考えなければいけないのは、この祝福を頂いた者として本当に主に感謝をしているかどうかです。もっと言えば、その感謝に相応しい生き方をしているかどうかです。

モーセは罪を犯しているイスラエルの民に対してこんなことを言っています。彼らが神の前に逆らっていたゆえに…。申命記32：5-6「主をそこない、その汚れで、主の子らではない、よこしまで曲がった世代。：6 あなたがたはこのように【主】に恩を返すのか。愚かで知恵のない民よ。主はあなたを造った父ではないか。主はあなたを造り上げ、あなたを堅く建てるのではないか。」と、これは私たちによく分かる訳（やく）ですよ。神がこんなにすばらしい祝福をくださったのに、あなたはどのように逆らうことによって主に恩を返すのか？それが相応しい生き方か？この祝福を頂いたあなたはそのような生き方をもって主に恩を返すのか？と言うのです。私たちがどのように生きていくのか、それは私たち自身が考えなければいけません。しかし、主が望んでいる生き方ははっきりしています。主のみこころに従い続けていくことです。主の教えに従い続けていくことです。主の教えを私たちは実践して行くことです。そういう人を主は愛し、そういう人々を祝して来られたのです。

詩篇の著者がすばらしい質問をしています。今日お読みした詩篇116篇です。12節「主が、ことごとく私に良くしてくださいましたことについて、私は【主】に何をお返ししようか。」と、何とすばらしい質問でしょう！この質問に対して、このようなすばらしい答えがこの著者によって与えられています。13節「私は救いの杯をかかげ、【主】の御名を呼び求めよう。」と、どういう意味か説明します。この著者は、主が為してくださいましたすばらしい救いのみわざを覚えたのです。そして、そのことに感謝したこの著者は、いったい、何をもってこの方にお返ししようか？何をもって神にこの感謝をお返ししようかと、このように自分に問いかけるのです。そして、彼は次の結論に達するのです。「私は救いの杯をかかげ、【主】の御名を呼び求めよう。」と、つまり、私は宮の中ですべての人々に主の為してくださいました救いのみわざを告げ知らせようと言います。これが彼がたどり着いた結論でした。この神のすばらしさを人々に伝えていこう、この神がどんなに偉大な方であるか伝えていこうと。間違いなく、神はそれを喜ばれました。

あなたはどのように生きていますか？「わがたましいよ。【主】をほめたたえよ。主の良くしてくださいましたことを何一つ忘れるな。」（詩篇103：2）」、大切なことです。神はどのような祝福をあなたに与えてくださったのでしょうか？イエス・キリストの大きな犠牲によってこの祝福が与えられたのです。主が良くしてくださいましたことを何一つ忘れてはいけません。この神のメッセージをしっかりと心に刻みましょう。

目を閉じて聞いてください。「あなたの歩みはどうですか？主によって救われた者に相応しい生き方

をしていますか？主によって救われたことを感謝しながら生きていますか？主があなたに求めておられることは「わたしの教えに従って来なさい。わたしの命じることを実践しなさい。」です。あなたはどのように生きておられますか？もしこの中で、「私の生き方は怠慢でした。何となくその日その日を過ごしていました。神様、私は今あなたの前にこれまでの生き方を悔い改めて、今日からあなたが喜ばれる生き方をしていきたい。あなたが与えてくださった恵みを覚えて、感謝をもってあなたの後をついていきたい。」と、そのように決心された方がおられるなら、主があなたを大いに祝してくださるようにと祈ります。あなたの信仰を強め、あなたを豊かな祝福で満たしてくださるよう祈ります。どうぞ、そのように歩み続けてください。ここにおられる皆さんひとり一人が、そのような歩みをもって、私たちを救ってくださったこの神のすばらしさを世に証していきましょう。そのために、あなたが主によって祝され強められ励まされ、用いられることを願います。

《考えましょう》

1. 聖書が教える「交わり」は、どういうものを説明してください。
2. 「主との交わり」を得たあなたが、主からすでにいただいた祝福を記してください。
3. どうしてこれらの祝福が、あなたに与えられたと信じることができるのでしょうか？その根拠を挙げてください。
4. このような祝福を与えてくださった主に対して、あなたはどのように生きていきたいと決心されたのかをお書きください。